

製品名: ネットリン-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14578**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	75kDa

抗原情報

遺伝子名	NTN1
別名	NTN1; NTN1L; Netrin-1; Epididymis tissue protein Li 131P
遺伝子 ID	9423.0
SwissProt ID	O95631
免疫原	抗血清はヒトネットリン 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 484-533

背景

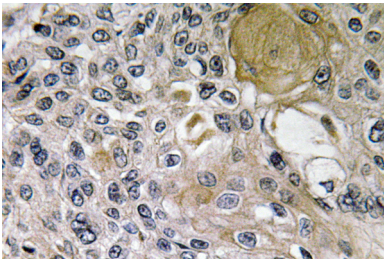
ネットリンはラミニン関連分泌タンパク質ファミリーに属する。この遺伝子の機能はまだ解明されていないが、発生過程における軸索誘導と細胞移動に関与していると考えられている。ネットリンの変異や発現欠損は、ネットリンの変異が癌の発生に関与している可能性

を示唆している。[RefSeq 提供、2008年7月],疾患: NTN1 遺伝子の欠損は、一部の神経芽腫と関連している。機能: ネットリンは中枢神経系の交連軸索と末梢運動軸索の誘導を制御する。DCC 受容体または一部の UNC5 受容体との結合は、それぞれ軸索の誘引または反発を引き起こす。また、アポトーシスの開始を阻害する受容体との結合を介して、生存因子としても機能する。アポトーシスを調節することにより、大腸がんの発生に関与する。類似性: ラミニン N 末端ドメインを1つ含む。類似性: NTR ドメインを1つ含む。類似性: ラミニン EGF 様ドメインを3つ含む。サブユニット: 受容体 (DCC、UNC5A、UNC5B、UNC5C、そしておそらく UNC5D) に結合する。組織特異性: 成人の正常組織に広く発現しており、心臓、小腸、結腸、肝臓、前立腺で最も高い発現を示す。脳腫瘍および神経芽腫では発現が低下する。、

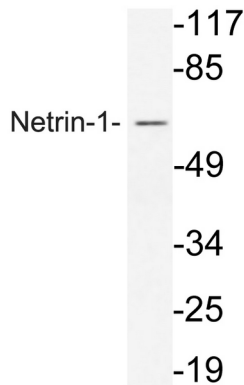
研究分野

軸索ガイダンス;

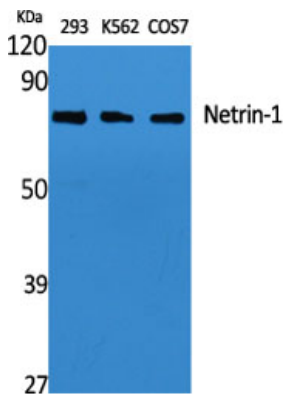
画像データ



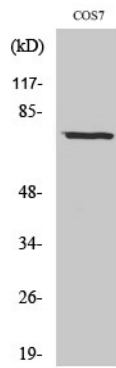
パラフィン包埋ヒト肺癌組織における Netrin-1 抗体の免疫組織化学分析。



Netrin-1 抗体を使用した COS7 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。



1: 1000 に希釈した Netrin-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 1000 希釈のネトリン-1 ポリクローナル抗体を用いた COS7 細胞のウェスタンブロット解析